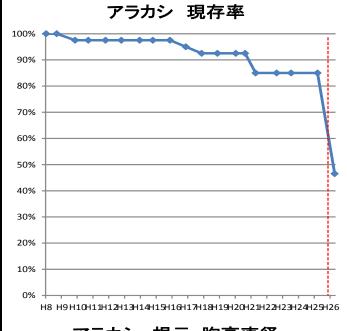
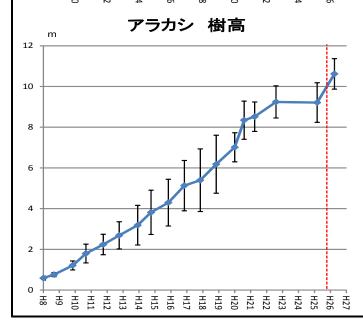
	T	
樹種名	アラカシ	
科目	ブナ科	
学 名	Quercus glauca	
分 布	日本では本州東北以南、四国、九州に分布する。	
樹木特性	半陰樹でありカシ類の中では、乾燥や貧 栄養によく耐える種である。 伐採すると切り株から萌芽する。萌芽力 は強い。	
用途	材は柾目に美しい虎班があり、床柱・器 具・槌の頭・くさび・拍子木・三味線の棹 ・農具の柄・床柱・建築材などに利用。庭 園樹としても利用。	
植栽本数/面積 (植栽密度)	71 本/ 0.02ha (3,000 本/ ha)	
特	【樹 形】 常緑高木で樹高は 10~15m 程度になる。 樹皮は黒っぽい灰色。葉は互生し楕円形で硬く、先は尾状に尖り中央から先にあらい。開花期は 4 月から 5 月で、雌雄異花。果実(堅果)は、いわゆるドングリのひとつとなる。殼斗(かくと【実の一部または全部を覆う椀(わん)状・まり状のもの部分】)は環状である。材は日本産木材の中で最も重く堅く、強度も強く、柾目に美しい虎班がある。	
試験地での様子		当初には苗木上部に枯れが見られたが、萌芽力も
	強く再生した。また、植栽後にコウモリガヤるものも見られた。 植栽後 18 年が経過した現在の平均樹高は	ウカミキリムシ類による穿孔被害が発生し枯死す 11m 程度にまで成長している。
被害	植栽後にコウモリガやカミキリムシ類による穿孔被害が発生した。 (延べ駆除本数 コウモリガ:14 本、カミキリムシ類:11 本)	





【現存率】

植栽直後にコウモリガやカミキリムシ類の穿孔 被害により枯死が数本発生した。

平成 21 年度からは順調な生育状況であれり、これ以降の枯死は見られない。

林内の照度調整を図るため、平成 21 年度に本数 調整伐を実施した。

平成 26 年度に、毎木調査を実施した結果、現存 率は 46.5%であった。

この他に当試験地内には樹齢が同一の自生した アラカシが3本存在している。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

【根元・胸高直径】

順調に成長している。

平成 26 年度に毎末調査を実施した結果、平均胸 高直径は 16.31 cmであった。

この他に当試験地内には樹齢が同一の自生した アラカシの平均胸高直径は 6.04 cmであり、植栽木 より肥大成長は劣っている。

- ※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。
- ※ オレンジ線は、根元から胸高へと測定箇所変 更のため、データの連続性はない。

【樹 高】

順調に成長している。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均樹 高は 10.62m であった。

この他に当試験地内には樹齢が同一の自生した アラカシの平均胸高直径は 6.76 cmであり、植栽木 より上長成長は劣っている。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。



《プチ情報》

大きな木になると、クヌギほどではないが、カブトムシやクワガタムシの昆虫が集まる。